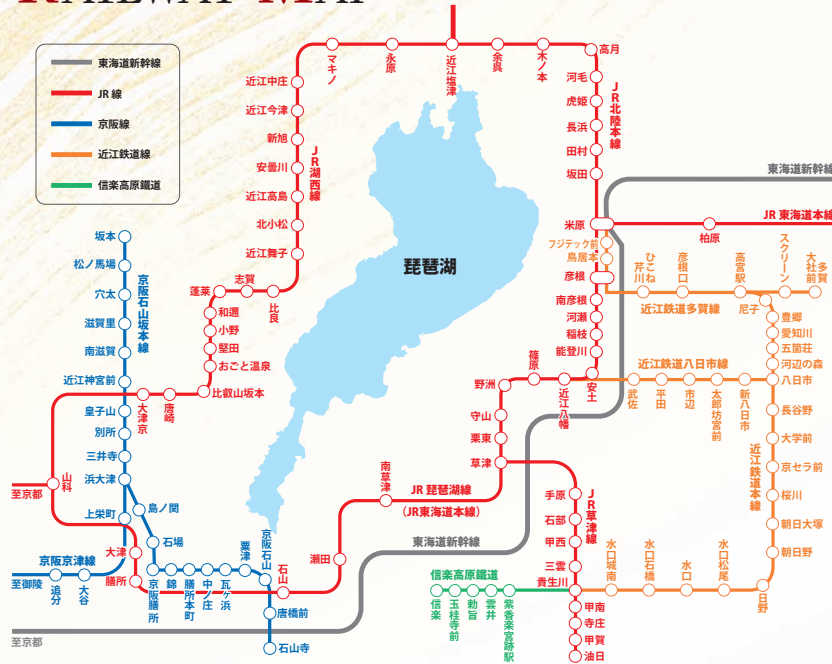


RAILWAY MAP



ROAD MAP



【お問い合わせ先】
公益社団法人 びわこビジターズビューロー

〒520-0806
滋賀県大津市打出浜2-1「コラボしが21」6階

TEL:077-511-1530 FAX:077-526-4393

<http://www.biwako-visitors.jp/>

滋賀県 商工観光労働部 観光交流局

〒520-8577
滋賀県大津市京町4丁目1-1
TEL:077-528-3743 FAX:077-521-5030

◆本誌記載のデータは 2013 年 2 月現在のものです。◆掲載情報は変更される場合がありますので、お出かけの際には事前にご確認ください。◆公共交通機関の運行状況は季節により異なる場合がございますので、事前にご確認ください。◆モデルコースはあくまで目安ですので、距離・天候・景観・健康状態等を考慮し、ご自身に合った予定でお出かけください。◆本誌に記載された情報の正確性は万全を期しておりますが、本誌の情報により生じたいかなる損害に関しても、発行者は責任を負わないこととさせていただきます。◆掲載された画像・文章は、無断で転載・引用することは出来ません。

＜協力＞
滋賀県教育委員会事務局文化財保護課・大津市歴史博物館
＜写真提供＞
園城寺(三井寺)・石山寺・長浜観光協会・東近江市観光協会
・大津市歴史博物館・滋賀県教育委員会事務局文化財保護課・草津市教育委員会
＜参考文献＞
「滋賀県文化財目録(建造物関係 平成23年4月発行)」滋賀県教育委員会事務局文化財保護課編集
「総覧 日本の建築(第6・1巻)滋賀・京都」日本建築学会編集 新建築社発行 2000年
「湖国のモダン建築」京都新聞社(企画事業部)編集 2009年
「湖国と文化 2011年4月 135号」滋賀県文化振興事業団発行 2011年
「寺社建築の歴史図典」東京美術発行 2002/2003年 前 久夫 著
「近江の商人屋敷と旧街道」NPO法人三方よし研究所編集 2005年
「歴史を活かしたまちづくり」文化庁文化財部参事官(建造物担当)編集 2010年
「国宝大事典 ⑤建造物」講談社発行 1985年
「滋賀県百科事典」滋賀県百科事典刊行会編集 大和書房発行 1984年
「解説版 新指定重要文化財11・12」「重要文化財」編集委員会編集 毎日新聞社発行 1981/1982年
「るるぶ '12-'13 滋賀びわ湖」JTBパブリッシング発行 2012年
「サライ 2012年6月号」小学館発行 2012年

～近江の文化財 名建築を訪ねる～

近江建物探訪

歴史的建造物の宝庫

滋賀県の国宝・文化財建築や伝統的町並みを
モデルコースと共に紹介します

公益社団法人 びわこビジターズビューロー
滋賀県 商工観光労働部 観光交流局

～近江の文化財 名建築を訪ねる～

滋賀県は、国宝・重要文化財の指定が「建造物」では全国第三位を数えるほど豊富な文化財を保有しています。その数は181件*にのびります。世界文化遺産に登録されている「比叡山延暦寺」をはじめ、多くの建造物や町並みが、幾多の動乱や天災などにより盛衰を繰り返しながら、時代を超えて人々に守られ、遺されてきました。その歴史的背景や建築的・文化的な価値を再発見していくとともに、今に残りなおその輝きを放ち続けている珠々の造形の美をご紹介します。

国宝と珠々の文化財

滋賀県には複数の国宝や重要文化財指定の建造物を保有する寺院や神社が数多くあります。ここでは国宝建造物を中心に県内の各エリア毎にご紹介していきます。
※文中の灰色(グレー)で表記されている言葉はP30の用語集で解説しています。



大津エリア(大津市)..... 4P ～	東近江エリア(竜王町)..... 13P
湖南エリア(野洲市)..... 8P ～	湖東エリア(彦根市・甲良町・愛荘町)..... 14P ～
甲賀エリア(湖南市)..... 10P ～	湖北エリア(長浜市)..... 17P

歴史的町並みと旧邸宅

国により選定された「重要伝統的建造物群保存地区」です。県内にある「近江八幡市八幡」・「東近江市五個荘金堂」・「大津市坂本」の3地区の町並みと代表的な建物をご紹介します。



近江八幡市八幡地区..... 18P	大津市坂本地区..... 22P
東近江市五個荘金堂地区..... 20P	

モデルコース八選

掲載した建造物を中心に地域やテーマにより巡るお薦めコース。ホームページではく動くコースガイド>による各コースの疑似体験もできます。



彦根城と近江八幡の町並み..... 19P	近江中世の神社建築を探访する..... 25P
近世真宗寺院と町並みを巡る..... 21P	天台古刹の国宝巡り(湖南三山)..... 26P
天台宗ゆかりの地・坂本を廻る..... 23P	近江の大門を訪れる..... 27P
近江の美塔を訪ねて..... 24P	湖畔に映える建造の美..... 28P

近江八景に映る建造の美

歌川広重(1797年～1858年)の浮世絵【保永堂・栄久堂板】に描かれた情景を、現在の姿と共にご紹介していきます。



近江八景に映る建造の美..... 29P

*平成24年4月現在

滋賀県 エリアマップ



(詳細地図はP31へ)

詳しい内容はホームページでもご覧になれます。
<http://www.biwako-visitors.jp/shigatatemono/>
近江建物探访 検索

この冊子は、滋賀県観光情報web「近江建物探访～近江の文化財・名建築を訪ねる～」をもとに作成しています。webでは、国宝・重要文化財、約174件の建造物を写真と共に紹介し、情報や用語解説、モデルコースなどをより詳細に掲載していますので、ご利用ください。

モバイルからもアクセスできます。





延暦寺

住所 大津市坂本本町4220 **電話** 077-578-0001 **駐車場** 有
巡拝料 550円(東塔・西塔・横川共通券 大人料金)

延暦寺根本中堂 【建築年代:江戸 寛永17年(1640年)】 **国 宝**



延暦寺の総本堂で、開祖最澄の自作と伝わる本尊薬師如来が祀られている。歴史は最澄が奈良から遠く離れた比叡山に入山し、延暦7年(788年)に「一乗止観院」を建て薬師如来像を安置したことに始まる。建物の内部は、内陣が外陣より3m低い石敷きの土間となっており、本尊や法灯

(ホトリ)がちょうど参拝者の目線と同じ高さになることで、仏も衆生も一つという仏教の「仏凡一如」の思想を表わしている。法灯は「不滅の法灯」と称され、開創以来1200年の間灯り続けている。何度かの焼失・再建の歴史を辿るが、現在の堂は徳川家光の命により再建されたものである。

日吉大社

住所 大津市坂本5-1-1 **電話** 077-578-0009 **駐車場** 有
入苑協賛料 300円 **参拝時間** 9:00～16:30

日吉大社西本宮本殿及び拝殿 【建築年代:桃山 天正14年(1586年)】 **国 宝**



日吉大社は、比叡山を神体山とする神社で、延暦寺が開かれてからは、その守護神として発展した。全国3800余の日吉・日枝・山王神社の総本宮である。本殿は、織田信長の焼き討ちの後、天正14年(1586年)に復興された。三間×二間の身舎(みや)の前面、両側面の三方に庇(ひさし)が巡らされた形で、側面や背面の屋根にその特色を見せる日吉造り(ひえづくり)となっている。日吉造りは、一名を聖帝(ショウタイ)造りともいい、全国では、日吉大社に見られる特殊な構造である。正面には一間の向拝と浜床(ハマヅカ)をつけ、縁高欄がまわりを巡っている。拝殿は、日吉大社の他の同じ形の拝殿の中では一番手の込んだ構造となっており、本殿と同時期に建てられた。

日吉大社東本宮本殿及び拝殿 【建築年代:桃山 文禄4年・桃山 文禄5年(1595年・1596年)】 **国 宝**



織田信長の焼き討ちにあったため、文禄4年(1595年)に再建された。平安時代以来の様式を伝えているといわれる、特殊な日吉造り(ひえづくり)で建てられてる。平面は、正面三間、側面二間の内陣の正・両側面に外陣を配置し、更にその外側の四周に高欄付きの縁を廻し、正面に木階を設け向拝とする。この身舎の正・両側面の三方に庇を設けた平面構成が、日吉造の特徴的な外観にもよく現れている。正面は入母屋造りのようだが、背面は庇がないため、左右の庇の部分を縫破風でおさめてるので、屋根を垂直に切り落としたような独特な姿となっている。拝殿は、文禄5年(1596年)に、本殿に引続き建てられたことがわかっている。典型的な拝殿の様式の一つで、細部も桃山時代の特色をよく現した優れたものである。

石山寺

住所 大津市石山寺1-1-1 電話 077-537-0013 駐車場 有
入山料 500円 拝観時間 8:00～16:30(入山は16:00まで)

石山寺本堂

【建築年代:正堂 平安 永長元年(1096年)
礼堂 桃山 慶長年間】

国 宝



滋賀県最古の木造建造物である本堂は、本尊を祀る内陣の正堂(セトウ)と外陣である礼堂(ライドウ)を相の間(アイノマ)で繋ぐ、総檜皮葺きの複合建築である。正堂は正面七間、側面四間で平安時代(永長元年:1096年)の再々建、傾斜地に建つ礼堂は正面九間、側面四間で懸造りとなっており、慶長年間に淀殿の寄進によって改築されていることから、時代の異なる建築の様式、構造、技法を一つ屋根の下に見ることができる。相の間東端には、紫式部が参籠し『源氏物語』を起筆したと伝わる「源氏の間」がある。

石山寺多宝塔

【建築年代:鎌倉 建久5年(1194年)】

国 宝



源頼朝の寄進と伝わる多宝塔は、建久5年(1194年)に建立され、建築年代が明確な多宝塔のなかで最古のものである。多宝塔は下層が方形、上層は円形の平面を持ち、屋根は宝形造りの檜皮葺き。上層は下層の半以下に細められ、左右に美しく広がる屋根とあいまって、安定感のある極めて優美な姿である。軒下の木組は、円形に並んだ12本の柱から放射線状に斜めに尾垂木を出して4段(四手先)に積み上げる最も複雑な構成となっている。1952年発行の4円切手の図柄として知られており、2011～2012年には45年ぶりの檜皮葺屋根の葺替修理が行われたばかりである。

園城寺(三井寺)

住所 大津市園城寺町246 電話 077-522-2238 駐車場 有
拝観料 500円 拝観時間 8:00～17:00 その他 勸学院・光浄院は事前予約が必要(支納金は別途要)。

園城寺金堂

【建築年代:桃山 慶長4年(1599年)】

国 宝



正式名は長等山園城寺(ナガトウサンジョウジ)。天智、天武、持統の三天皇の産湯に使われた霊泉があり、「御井の寺」と呼ばれていたことから、三井寺(ミヅヱ)の通称がある。円珍が「御井寺」を延暦寺の別院として再興し、後に延暦寺「寺門派」として分立した歴史をもつ。寺域は35万坪(約120万㎡)に及び園城寺の中心をなす金堂(本堂)は周囲を圧倒する壮大さを誇る。金堂は幾多の変遷を経て、現在の建築は北政所により再建されたものである。

勸学院客殿

【建築年代:桃山 慶長5年(1600年)】

国 宝



桃山時代を代表する書院建築で、現在の建物は慶長5年(1600年)に再建されたもの。豊臣秀吉により破却され、秀吉の正室・北政所により再興された。内部は南北に三列に分かれ、南・中央・北側3間計9室の間取りとなる。幅は広縁を含め南北16.78m・東西14.8mと正方形に近い造りとなっている。

光浄院客殿

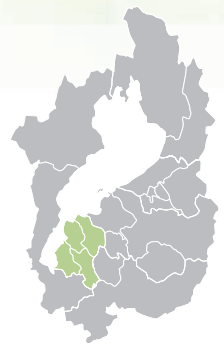
【建築年代:桃山 慶長6年(1601年)】

国 宝



園城寺山内の子院の1つで、勸学院客殿と共に桃山時代の書院造を代表する。華やかな障壁画や襖、長押や建具の金具などにも桃山の特徴が表れている。現在の建物は慶長6年(1601年)の再建。勸学院の客殿と外観は似ているが、部屋割りが異なり居間や寝室にあたる部屋がないこと、また規模が少し小さいことなどが異なる。内部は南北二列に分かれ、南に18畳、18畳、6畳の3間、北に6畳、8畳、12畳、4畳の間が並んでおり、広縁を含め幅南北13.86m・東西14.42mとなる。

湖南 エリア



大笹原神社

住所 野洲市大笹原2375

大笹原神社本殿

【建築年代：室町 応永21年(1414年)】

国 宝



神社の創建は、社伝によると寛和2年(986年)といわれている。古くは、牛頭天王社と呼ばれていたが、明治時代に大笹原神社に改められた。本殿は棟札より応永21年(1414年)の建立。三間四方で自然石積の基壇上に建つ。内部は外陣・内陣・内々陣に区画され、正面に一間の向拝を設ける。四周に縁がつき、外陣廻りの縁は一段低くつくりられている。

この平面形式は滋賀県に中世の遺構が多い前室付きの流造本殿と同じ形式である。簀股、脇障子、欄間などに時代の特徴をよく現したくみな彫刻がもちいられ、中世神社建築の中でも特に優れた意匠をもつ。屋根を入母屋造りとした点や、要所に施された華麗な彫刻類及び木組みなどに仏堂的用素が多く取り入れられている。

御上神社

住所 野洲市三上838

電話 077-587-0383

駐車場 有

拝観料 無料

御上神社本殿

【建築年代：鎌倉 後期】

国 宝



御上神社は、近江富士で有名な三上山(みかみやま)(432m)の山麓にある。神社の創立は社伝によれば古代までさかのぼり、祭神の天御影之神が三上山に降臨したのを祀ったのが始まりといわれている。本殿は様式からみて鎌倉時代後期と推定される。入母屋造り、漆喰壁及び連子窓(レヅマド)など仏堂的要素が融合した神社建築で、屋根部の

千木(チギ)、堅魚木(カツキ)がなければ、仏堂とほぼ同じ外観となる。中心部一間四方を身舎(ミヤ)として正面に板扉を構え、その周囲に一間通り化粧屋根裏の庇を廻した構成である。側柱の間隔はすべて同じだが、身舎の柱間はその間隔よりやや広い。簡素であるが優れた姿をしている中世神社本殿建築の代表作である。

甲賀 エリア



善水寺

住所 湖南省岩根3518

電話 0748-72-3730

駐車場 有

拝観料 500円

拝観時間 9:00～17:00(11月から2月までは16:00まで)

善水寺本堂

【建築年代:室町 前期】

国 宝



善水寺は長寿寺、常楽寺とあわせて「湖南三山」と呼ばれ、寺伝によると、和銅年間(708年～715年)に元明天皇が国家鎮護のために草創した和銅寺を前身とし、延暦年間(782年～806年)に善水寺と寺名を改め、天台寺院となったという。本堂は延文5年(1360年)の火災後、貞治5年(1366年)に再建されたと伝えられ、様式などからも室町時代前期の建立と考えられる。本尊の薬師如来をはじめ三十

余軀の仏像が安置されている。細部に禅宗様、構造に大仏様を巧みに用いた、桁行七間、梁間五間、入母屋造り、檜皮葺きの大型の密教仏堂。正面に向拝を持たないため美しい屋根の曲線が際立つ。外陣の大虹梁が桁行に架かるのが特徴。桓武天皇の病を治したと伝えられ寺号の由来となった清水が、現在も湧き出ている。

長寿寺

住所 湖南省東寺5丁目1番11号

電話 0748-77-3813

駐車場 有

入山料 500円

拝観時間 9:00～16:00(1月～3月は要予約)

長寿寺本堂

【建築年代:鎌倉 前期】

国 宝



阿星山(アボシヤマ 693.1m)の北東麓にあり、常楽寺の西寺に対して東寺と呼ばれる天台宗の寺院。長寿寺の創建は奈良時代後期、聖武天皇の勅願によって良弁(ラハベン)が創建したと伝えられるが、後に天台宗の興隆にともない同宗の寺院になった。本堂の建立年代は明らかでないが、様式手法から鎌倉時代前期に建立されたものとみられる。内部は

内・外陣にわかれ、内陣は入母屋形、外陣は寄棟形の化粧屋根裏とし、これを覆う大屋根をかけている。内外陣境を菱格子欄間と格子戸で間仕切る天台密教の典型的な仏堂である。この時代の和様仏堂の代表的優作で意匠的に優れているばかりでなく、古様をよく伝えている。

常楽寺

住所 湖南市西寺6丁目5-1

電話 0748-77-3089

駐車場 有

入山料 500円(要事前予約)

常楽寺本堂

【建築年代：室町 延文5年(1360年)】

国 宝



常楽寺は延暦寺に属する天台宗寺院。奈良時代から平安時代にかけて、湖南市の阿星山(アホシヤマ)には多くの寺院が建ち並び、「阿星山五千坊」と呼ばれるほどの湖南仏教文化圏を形成するようになり、約1km東方にある長寿寺とともに中心的存在として隆盛した。本堂の完成年代は明らかではないが、延文5年(1360年)の火災後まもなく復興された。その後まもなく、外陣の天井形式を変更するなどの大改造が行われ、現在の姿となった。菱組欄間(ヒシクミランマ)と格子戸により内外陣境を仕切る天台密教の典型的な仏堂である。桁行七間、梁間六間、三間の向拝付の大建築で、全体としては和様の典型的を表わす仏堂である。

常楽寺三重塔

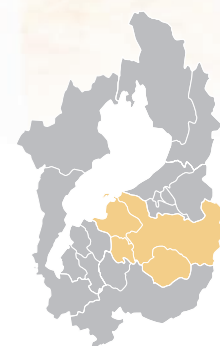
【建築年代：室町 応永7年(1400年)】

国 宝



塔は本堂に向かって左後方の一段高い場所にあり、この立地は天台宗仏寺の伽藍(がらん)配置の一典型である。建立は応永7年(1400年)。垂木の間隔を基準の寸法として建物を計画する枝割(えぎわり)を用いて、明確に建てられた方三間、本瓦葺きの和様の塔で、上部相輪を含めた総高は、22.8m、相輪の長さは総高の1/3となっている。初重内部には禅宗様の須弥壇(シュミダケン)を設け、板壁や四天柱その他には仏画や彩色模様が画かれている。

東近江 エリア



苗村神社

住所 竜王町大字綾戸467

電話 0748-57-0160

駐車場 有

拝観料 無料

拝観時間 9:00~17:00(内部拝観時は志納金要)

苗村神社西本殿

【建築年代：鎌倉 徳治3年(1308年)】

国 宝



苗村神社は蒲生平野に位置し、蒲生野は古く万葉集に「あかねさす紫野行き標野行き野守は見ずや君が袖振る(額田王)」 「紫の匂える妹を憎くあらば人妻ゆえに我恋めやも(大海人皇子)」などと詠まれたことで知られている。社伝によると平安時代の草創という。西本殿は、三間社流造りの底に建具を設けて前室とし更に向拝をつける、滋賀県の中世本殿に類例が多い形式である。棟札によれば建

保5年(1217年)に建てられた旧本殿に替わって、徳治3年(1308年)に再建された。左右対称の彫刻を入れた二個の臺股は、非常に美しく、よく時代を表している。建立年代が明確な県下の同形式本殿中最古の建物で、全体の姿もとのい、細部意匠にも優れた、前室付きの中世流造本殿の代表的建築である。



彦根城

住所 彦根市金亀町1番1号 **電話** 0749-22-2742(彦根城管理事務所) **駐車場** 有
入場料 600円 **見学時間** 8:30～17:00

天守、附櫓及び多聞櫓

【建築年代:桃山 慶長12年(1607年)】

国 宝



彦根城の建築は慶長9年(1604年)に着手され、城郭は約20年の歳月をかけて完成した。天守は五階建の大津城から部材を移し、慶長12年(1607年)頃に完成したとされる。(昭和の解体修理の際、五階建ての天守の材料を利用して建てられたことがわかっている。)この天守は地下一階、地上三重三階で、入母屋破風、切妻破風、唐破風などいくつかの屋根様式を巧に組み合わせた曲線の調和が

美しい。この変化に富んだ破風の構成や、花頭窓(火灯窓)や装飾による華やかな雰囲気は比類のない独特な城姿を見せている。内部は、各階共中心部を二室とし、通し柱はなく、各下階の梁(はり)の上に上階の柱を建てて三階まで順に平面が小さくなっている。天守の北西隅には附櫓(ツケぐら)に続き、更に長い多聞櫓(タモンぐら)が連なっている。いずれも天守と共に国宝に指定されている。

西明寺

住所 甲良町池寺26番地 **電話** 0749-38-4008 **駐車場** 有
入山料 500円 **拝観時間** 8:00～17:00(入山は16:30までに)

西明寺本堂

【建築年代:鎌倉 前期】

国 宝



滋賀県内の鎌倉時代の代表的な建造物で、本堂は国宝第一号に指定されている。「日本の100の古寺」にも選ばれており、金剛輪寺・百済寺とともに「湖東三山」と呼ばれ親しまれている。延暦寺を本山とする天台宗寺院である。寺伝によると、寺は仁明天皇の勅願により承和元年(834年)三修上人が開創したとされる。鎌倉時代前期に桁行五間、梁間五間の堂が建立され、室町時代前期に拡張工事が行われ七間堂になり、向拝が付けられた建物。和様を基調とした本堂で、ゆるい勾配の桧皮葺きの屋根、正面全面の蔀戸(シミツ)や柱上組物を飾る蟬股など、すばらしい構成美を持った大建築である。

西明寺三重塔

【建築年代:鎌倉 後期】

国 宝



三重塔は、様式手法からみて鎌倉時代後期の建立と推定される。初重内部は中央四天柱内に須弥壇を設け大日如来をまつ。四天柱、四方の壁、扉などに仏画がよく残り、長押・天井等隅々まで極彩色の文様で装飾されている。伝統的な純和様の意匠でまとめられている塔で、二重、三重の屋根間隔を小さくして安定感を持たせた建物で、その建築美は三重塔の中でも屈指のものとされている。各部ともよく整い、全体の調和が優れ、実に美しい姿をもつ三重塔である。

金剛輪寺

住所 愛荘町松尾寺873番地 電話 0749-37-3211 駐車場 有
拝観料 500円 拝観時間 8:30～17:00

金剛輪寺本堂 【建築年代:室町 前期】 国 宝



湖東三山の一つで、奈良時代に聖武天皇の勅願により行基が開山した天台宗の寺院。本堂は、様式などから室町時代前期の建立と考えられている。桁行七間、梁間七間、入母屋造りで、正面には蔀戸（シミド）を入れるなど全体は伝統的な和様建築であるが、内部の組物の一部に、13世紀に伝来した禅宗様式の拳鼻がついている。

密教本堂の通例で、内部は外陣と内陣に区画するが、外陣大虹梁を受ける太い列柱と、格子戸・菱格子欄間の内外陣境界とで構成される広い礼拝空間、天井を化粧屋根裏とし荘重な須弥壇を構える内陣は、ともに流麗な曲線の桧皮葺大屋根に包含され、堂々たる偉容は近江中世本堂の圧巻ということが出来る。

湖北 エリア



宝厳寺

住所 長浜市早崎町竹生島 電話 0749-63-4410
入島料 400円 拝観時間 9:30～16:30

宝厳寺唐門 【建築年代:桃山 慶長8年移築(1603年移築)】 国 宝



唐門とは、唐破風をもつ門という意味。秀吉が建てた大坂城極楽橋の一部で現存唯一の大坂城遺構として注目されている。その後、京都東山の豊国廟極楽門に移築、豊臣秀頼

の命により竹生島に渡った。檜皮葺き、建物全体を総黒漆塗りとした上に金鍍金（キンメッキ）の錆（かがり）金具が散りばめられ、豪華絢爛と言われた桃山時代の代表的遺構である。

「近江八幡市八幡地区」

16世紀終りに豊臣秀吉の甥・秀次が築いた八幡山城の城下町として開かれ、その後近江商人の商業活動の町として発展した。町の北側を走る八幡堀は、琵琶湖を往来する荷船の流通により近江商人と町の発展を支え、堀に沿っては白壁の土蔵や旧家が並び、現在は堀沿に石畳の遊歩道も整備されている。新町通り周辺が八幡を代表する商家の町並みとなり、旧西川家住宅、伴家住宅など大型の町家が建ち並んでいる。保存地区には、この新町通り、八幡堀周辺と永原町通りの道筋約1.6kmが形つくるコの字形の地区に、日牟禮八幡宮周辺の一画を加えた範囲が重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。

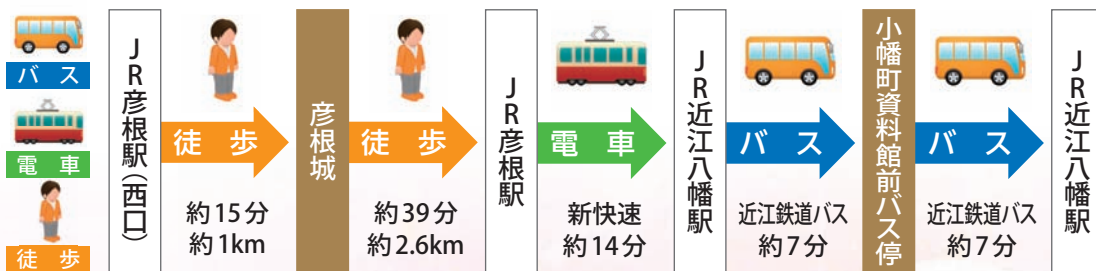
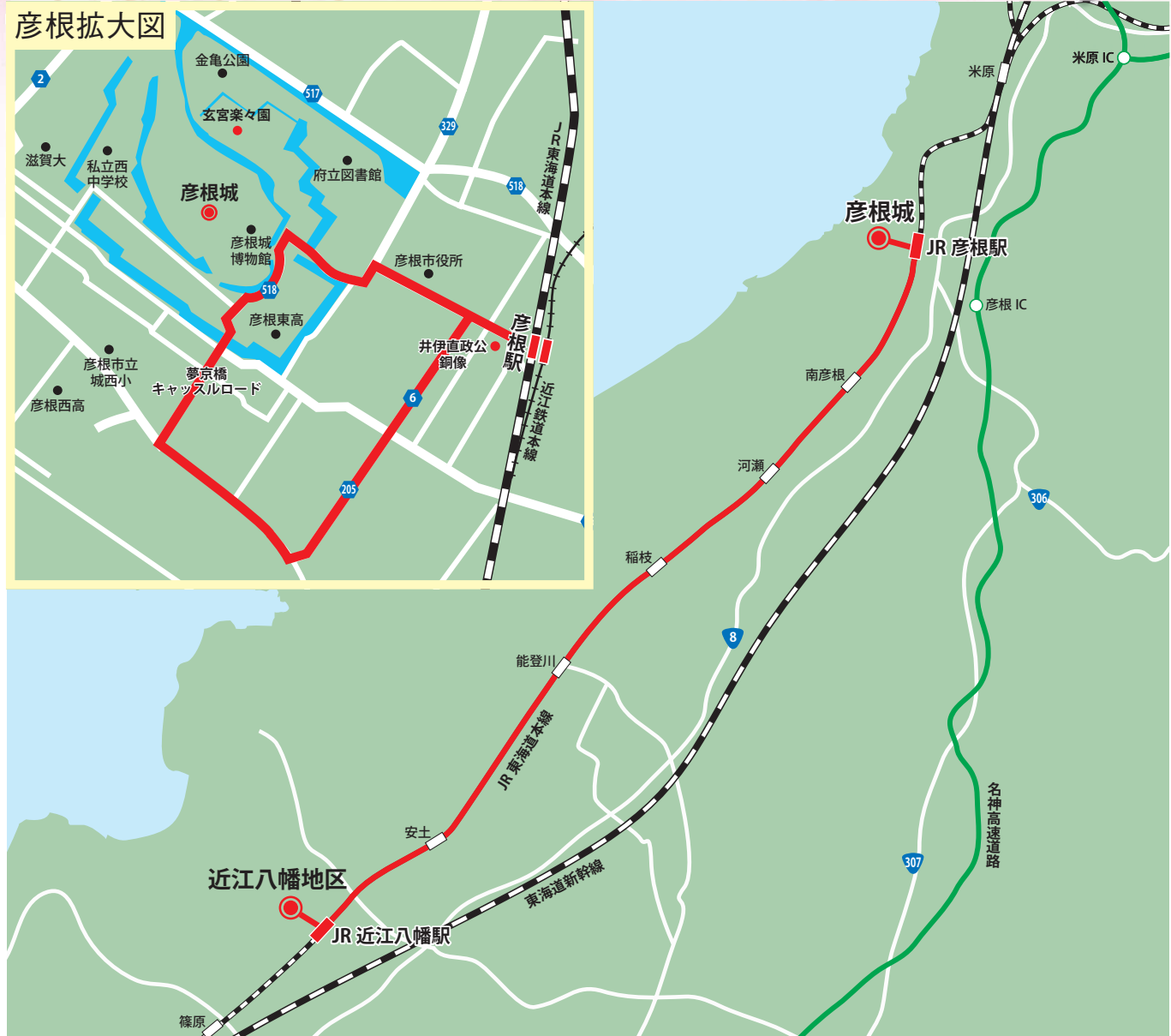


豊臣秀次が築いた城下町は山麓から舟木を家臣の居住地とし、堀の南側に町人地がおかれたらしい。町人の居住地は、南北12筋、東西4筋の碁盤目状で、見通しの良い整然とした町割りである。文禄4年(1595年) 秀次の失脚に伴い、八幡山城は破棄されるが、町は町人たちの力により再生し、八幡商人たちの商売努力によって江戸時代を通じて発展した。築城以来の

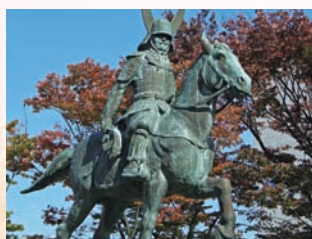
旧城下町の形態とともに、碁盤目の町割、江戸時代に活躍した八幡商人の居宅、洗練された意匠からなる質の高い町家などが現在も残る。町家は切妻造棧瓦葺、平入りを基本とし、外観は格子、虫籠窓により統一感を感じさせ、軒下に貫を一筋見せる形や卯立が町並みに特徴を与えている。見越しの松、塀、土蔵が連なり落ち着いた雰囲気を感じさせる。

彦根城と近江八幡の町並み

モデルコース



※徒歩の場合／移動時間及び距離は目安です。徒歩での移動は、時速4kmで想定していますが、道路勾配などは考慮していません。※電車・バスの場合／公共交通機関の運行状況・所要時間は時期により異なる場合がございますので、事前にご確認ください。※表示はスポット間の単純移動に要する時間・距離の目安であり、拝観・見学や周辺に要する時間・距離は含まれていません。



井伊直政公銅像



彦根城



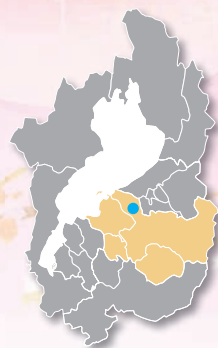
玄宮楽々園



夢京橋キャッスルロード

「東近江市五個荘金堂地区」

町並みは舟板塀や白壁をめぐるした屋敷、清らかな水が流れ錦鯉が優雅に泳ぐ掘割が縦横に走っている。五個荘金堂地区は近江商人ゆかりの地で、国の『重要伝統的建造物群保存地区』に選定されています。金堂町は五個荘地区のほぼ中央部に位置し、町域は古代条里制の地割の名残を残しほぼ正方形をしている。



五個荘は水田地帯の農村としての歴史をもち、江戸初期には幕府領となり陣屋が置かれた。金堂では、陣屋を中心に三方に寺院が配置され、江戸時代後期から昭和前期にかけての近江商人の本宅群と伝統的な農家が、寺社や周辺の水田とともに優れた歴史的景観を形成している。白壁、土蔵、舟板塀が続く町並みは、水面に映える白漆喰の土塀、錦鯉が悠悠と泳ぐ弘

誓寺前の水路、趣のある葺き屋根の農家など、豊かさと落ち着きを感じさせる。金堂地区では近江商人の本宅三棟（外村宇兵衛邸、外村繁邸、中江準五郎邸と金堂まちなみ保存交流館）が公開されている。春には商人の行商姿で御輿を担ぐ祭礼の五箇祭りが行われる。町の中心をなす弘誓寺（グゼイジ）本堂は、国の重要文化財に指定されている。

近世真宗寺院と町並みを巡る

モデルコース



車	車	車	車	車
JR 能登川駅	弘誓寺	大通寺	五村別院	JR 虎姫駅
約10分 約4.7km	約78分 約52km	約8分 約4.5km	約3分 約800m	

※車の場合、移動時間及び距離は目安です。車での移動は時速35～40kmを想定していますが、交通状況などは考慮していません。
※表示はスポット間の単純移動に要する時間・距離の目安であり、拝観・見学や周辺に要する時間・距離は含まれていません。



弘誓寺本堂



黒壁スクエア(黒壁ガラス館)



大通寺本堂



五村別院本堂

A map of the Iberian Peninsula with the study area in southwestern Spain highlighted in orange. A blue dot indicates the specific location of the study area within the orange region.

至 ケーブル延暦寺駅

坂本ケーブル

ケーブル坂本駅

日吉東照宮

比叡山高校

西本宮 日吉大社

白山姫神社

県道47号線

円頓坊

延暦寺慈眼堂

滋賀院門跡

比叡山幼稚園

宝積院

比叡山中学校

美容園

旧竹林院

日吉馬場

恵光院

律院

県道316号線

行泉院

乗実院

延命院

大慈院

町並み

坂本四丁目

生源寺

坂本観光案内所

坂本駅

坂本幼稚園

福成神社

京阪電車 石山坂本線

至 浜大津

坂本小学校

坂本六丁目

公人屋敷

至 JR比叡山坂本駅

とともに風格ある外観を形成している。さらに里坊にはそれぞれ庭園があり、よく手入れされた美しい樹木が清冽な水路などとともに景観に豊かさを添えている。日吉大社の参道は日吉の馬場と呼ばれ、広い道の両側に石灯籠が並び松並木や石垣、水路とともに広場のような雰囲気を感じさせる。



※徒歩の場合／移動時間及び距離は目安です。徒歩での移動は、時速4kmで想定していますが、道路勾配などは考慮していません。
※表示はスポット間の単純移動に要する時間・距離の目安であり、拝観・見学や周遊に要する時間・距離は含まれていません。



西教寺本殿



目吉大社西本宮本殿



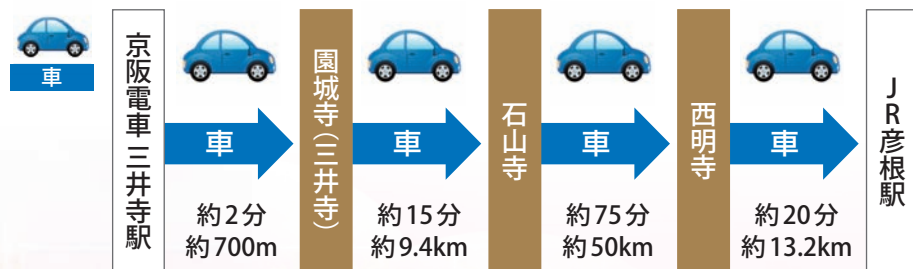
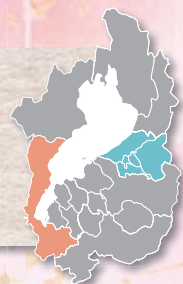
富照東社末社大目



滋賀院門跡

近江の美塔を訪ねて

モデルコース



※車の場合 / 移動時間及び距離は目安です。車での移動は時速35～40kmを想定していますが、交通状況などは考慮していません。
※表示はスポット間の単純移動に要する時間・距離の目安であり、拝観・見学や周遊に要する時間・距離は含まれていません。



園城寺塔婆(三重塔)



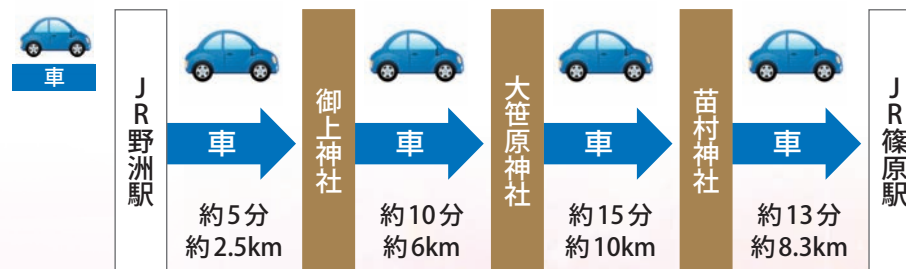
石山寺多宝塔



西明寺三重塔

近江中世の神社建築を探訪する

モデルコース



※車の場合 / 移動時間及び距離は目安です。車での移動は時速35～40kmを想定していますが、交通状況などは考慮していません。
※表示はスポット間の単純移動に要する時間・距離の目安であり、拝観・見学や周遊に要する時間・距離は含まれていません。



御上神社本殿



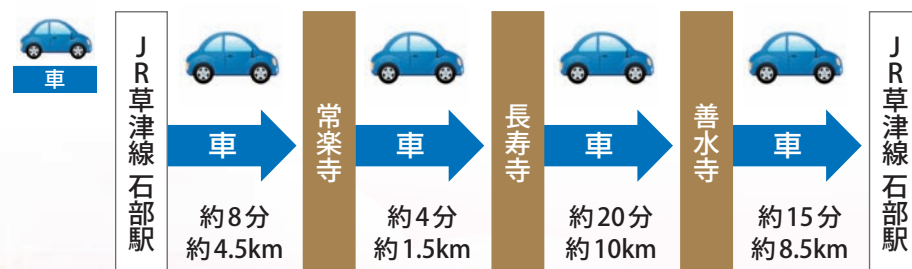
大笹原神社本殿



苗村神社西本殿

天 台古刹の国宝巡り(湖南三山)

モデルコース



※車の場合／移動時間及び距離は目安です。車での移動は時速35～40kmを想定していますが、交通状況などは考慮していません。
※表示はスポット間の単純移動に要する時間・距離の目安であり、拝観・見学や周遊に要する時間・距離は含まれていません。



常楽寺本堂



常楽寺三重塔



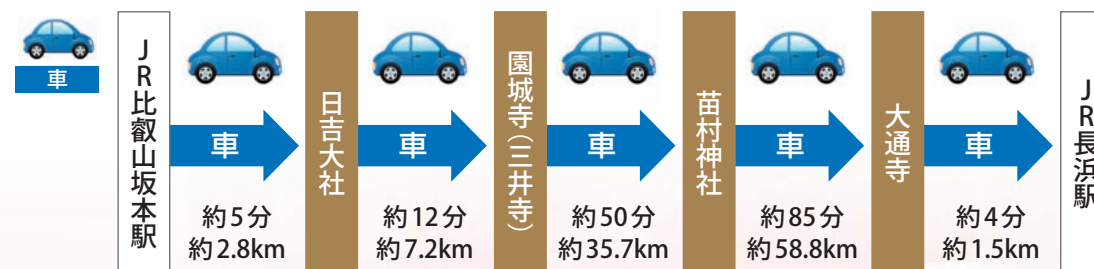
長寿寺本堂



善水寺本堂

近 江の大門を訪れる

モデルコース



※車の場合／移動時間及び距離は目安です。車での移動は時速35～40kmを想定していますが、交通状況などは考慮していません。
※表示はスポット間の単純移動に要する時間・距離の目安であり、拝観・見学や周遊に要する時間・距離は含まれていません。



日吉大社西本宮楼門



園城寺大門(仁王門)



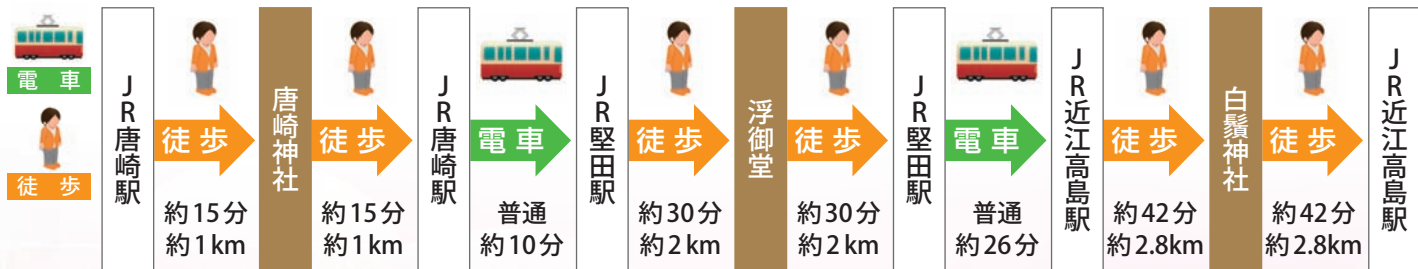
苗村神社楼門



大通寺山門

湖畔に映える建造の美

モデルコース



※徒歩の場合／移動時間及び距離は目安です。徒歩での移動は、時速4kmで想定していますが、道路勾配などは考慮していません。※電車の場合／公共交通機関の運行状況・所要時間は時季により異なる場合がございますので、事前にご確認ください。※表示はスポット間の単純移動に要する時間・距離の目安であり、拝観・見学や周遊に要する時間・距離は含まれていません。



唐崎神社



浮御堂



白鬚神社本殿



白鬚神社 湖中鳥居

近江八景に映る建造の美



三代歌川広重 「近江八景全図石山より見る」 大津市歴史博物館蔵

古くから全国に名勝として親しまれてきた「近江八景」。その本歌は、中国北宋代にあり、湖南省の洞庭湖および湘江・瀟水周辺の水郷の情景を描いた「瀟湘（ショウショウ）八景」です。それを現代に伝わる近江八景として、琵琶湖の八つの名所に見立てたのは近衛信尹（1565年～1614年）です。江戸時代には「富士山」と並び人気を博した近江の八景には、豊かな自然と共に数々の建造物が映し出されています。ここでは歌川広重（1797年～1858年）の浮世絵【保永堂・栄久堂板】に描かれた情景を、現在の姿と共にご紹介していきます。

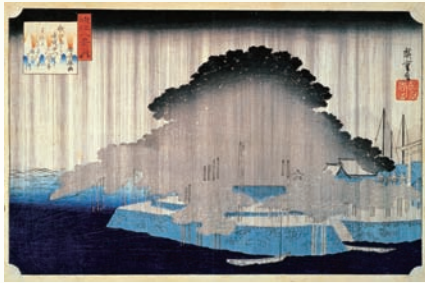
堅田の落雁（カタナラクガン）



歌川広重 【栄久堂板】近江八景之内 堅田落雁 個人蔵

比良山を遠景に、手前には湖上に浮かぶ帆船、中天から連なった雁の群れが舞い降りる構図は、晩秋の湖の眺望を見事に表現した作品といえる。「落雁（ラクガン）」とは、雁（ガン）が一行に連なって、ねぐらに舞い降りる様子を表わす言葉。晩秋から冬にかけての琵琶湖の夕暮時の風物詩である。堅田のランドマークである浮御堂が情景のモニュメントとなっている。

唐崎の夜雨（カラサキナユ）



歌川広重 【栄久堂板】近江八景之内 唐崎夜雨 大津市歴史博物館蔵

唐崎神社には、天正9年（1581年）に当時の大津城主の弟・新庄直寿によって植えられた2代目の巨松がその威容を誇っていた。枝振りは、東西72m、南北86m、高さ27mもあったと伝えられている。梅雨しぐれの中にその巨大な老松のシルエットを画面いっぱいに浮かび上らせ、映画のような臨場感を表現している。それまで和歌のイメージに沿った情景として描かれてきた近江八景図の歴史のなかで、革新的な表現をみせている。広重の【保永堂・栄久堂板】のシリーズ中でも最も評価の高いものである。

浮御堂



浮御堂のある寺院の正式名称は海門山満月寺。京都大徳寺派に属する禅寺。浮御堂自体は（995年）頃、恵心僧都源信（エシノサスゲンシン）が湖上通船の安全と、衆生の済度を念じて湖上に建立したお堂が、その起源となっている。堂内には約千体の阿弥陀仏が安置されている。その湖面にたたずむ優雅な姿は人々の心をひきつけ、松尾芭蕉はじめ多くの歌人が詩歌を残していることでも知られている。古今を通じて湖の景観のシンボルとして親しまれ、広重の近江八景にもその姿が描写されている。国登録有形文化財。

唐崎神社



唐崎神社の現在の境内には、3代目の樹齢約100年の松が鎮座している。唐崎は古く平安時代に朝廷の「七瀬之祓（セチノハラヒ）」の一所として、水辺で身の穢れを祓う、みそぎの地とされていた。天皇の災禍を負わせた人形を平安京を取り巻く七つの水辺で祓いをして流すもので、「水に流す」との語源ともなっている。広重の作品では、雨にけむる雄大な松と共にその姿が描かれている。県指定名勝。

瀬田の夕照（セタノセキショウ）



歌川広重 【保永堂板】近江八景之内 瀬田夕照 個人蔵

瀬田橋は、「長橋（ナガハシ）」とも呼ばれ、古来から交通の要衝であり、また戦乱の舞台ともなった。災害による流出もまた多く、時の為政者の手によってたびたび架け替えが行われてきたが、現在のように、大橋・小橋のかたちになったのは、天正3年（1575年）織田信長の架橋以降のことといわれる。作品では、和歌にならって、唐崎から琵琶湖上にかけての空が朱色に染まる夕暮れの情景を描いている。和歌（写真左上）「露しぐれ守やまとはく過（すぎ）来つゝ夕日のわたる勢田の長はし」

瀬田の唐橋



近江八景としてだけでなく、日本三名橋としても名高い。歴史の文献上に初めて登場したのは、「日本書紀」の壬申の乱での戦いの舞台で、古くから交通の要所、軍事上の拠点となってきた。太平の時代には街道の名所として庶民にも広く知られわたり、多くの紀行文や絵画にも描かれた。とりわけ、芭蕉の句や広重の浮世絵が有名である。木造だった唐橋は1924年の架け替え以降コンクリート製となったが、高欄にとりつけられた擬宝珠（ギョウシ）には、江戸時代・寛政年間（1789年～1801年）の銘が刻まれたものが引き続き使われている。

用語集

ア	入母屋造り (イロモヤヅクリ)	切妻造りの下部の四方に庇をつけ、1つに統一したような屋根の形式。広い意味では、同様の屋根をもつ建物のことを指す。
	大棟 (オオムネ)	屋根の最上部にある水平な棟。
	尾垂木 (オダヅキ)	組物から斜めに突き出している部材。
カ	葺股 (カエルマタ)	本来は上部構造の重みを支えるもの。寺社建築などで、頭貫 (カシヌキ) または梁 (ハリ) の上、桁との間などに置かれる山形の部材。平安時代中期以降に、単に装飾として、さまざまに彫刻して妻などにつけられるようになった。カエルが足を広げた形に似ているところからこの名がある。
	堅魚木 (カツギキ)	大棟の上に棟に直角になるように何本か平行して並べた断面が円形の木のこと。堅緒木、鯉木ともいう。
	懸造り (カサヅクリ)	急な斜面や段差のある場所に建物を建てる際、床面を水平に保つため床下柱の長さを調整して、床の高さを揃える工法。崖造り。
	花頭窓 (カウマト)	寺社建築・城郭建築などに見られる。上枠を火炎形 (火灯曲線) または、花形 (花頭曲線) など曲線に造った窓。火灯窓ともいう。
	唐破風 (カラハフ)	中央が凸形にむくり、左右両端が反り上がる破風。
	伽藍 (ガラン)	僧侶が集まり修行する清浄な場所の意味であり、後には寺院または寺院の主要建物群を意味するようになった。
	切妻造り (キリヅマヅクリ)	大棟から両側に二つの斜面をふきおろした屋根の形式。広い意味では、同様の屋根をもつ建物のことを指す。
	外陣 (ゲジン)	神社の本殿や寺院の本堂で、内陣の外側にある参拝のための場所。
	化粧屋根裏	天井を張らず、垂木 (タキ) や梁 (ハリ) など屋根裏の構造材を見せるようにした形式。
	桁、桁行 (ケタキ)	大棟に対して平行方向に位置し、屋根荷重を支える水平材の総称。その向き、長さを「桁行」という。
	間 (ケン)	①柱と柱との間 (あいだ) を間 (けん) と呼ぶ。②尺貫法における長さの単位で、1間は約1.8182メートルに相当する。
	向拝 (コウハイ)	屋根の一部が前方に突き出し、拝札の場所となっているところ (大屋根から張り出して庇を設けた部分)。
	高欄 (コウラン)	縁、階段などの端に設ける伝統的な様式の手すり。装飾だけのもの、墜落防止を兼ねるものもある。
サ	子院 (シン)	本寺に付属する小寺院。
	葺戸 (シミド)	格子に板を張ったもの、あるいは板を表裏から格子ではさんだものを、はね上げて開閉する戸。
	須弥壇 (シユミダン)	仏堂内部に造られる、仏像や厨子などを安置するための壇。
	千木 (チギ)	屋根の両端で交叉させた木のこと。
タ	妻 (ツマ)	建物の各面 (側面) の呼び名。屋根の大棟と直角な面 (建物の短辺側のことが多い) を「妻」という。切妻造りや入母屋造りの側面にできる三角形の部分。
ナ	内陣 (ナイジン)	寺院の本堂内部において本尊を、神社の本殿内部において神体を安置する場所。外陣 (ゲジン) と対置される。
	内々陣 (ナイナジン)	内陣の中の厨子 (スシ)。内陣の更に奥。
	流造り (ナガレヅクリ)	切妻造り、平入りの形式で、正面側の屋根の流れを長く延ばして反りを付け、これを向拝にした社殿。
	長押 (ナゲシ)	柱同士の上部などを水平方向につなぎ、構造を補強するために、柱の外側から打ち付けられたもの。
ハ	袴腰 (ハカゴシ)	鐘楼などにみられる、下層の末広がり (台形) になった袴 (ハカマ) のような覆い部分。
	破風 (ハフ)	切妻造りや入母屋造りの屋根の側面についている山形の板。または板の取り付けいているところ。
	浜床 (ハマヅカ)	神社本殿などの向拝の階段下にある低い縁。
	梁、梁間 (ハリマ)	大棟や桁に対して直行方向 (妻側) に掛かる水平材のこと。その向き、長さを「梁間」という。
	日吉造り (ヒヱヅクリ)	身舎 (ミヤ) に対し、正面だけでなく両側面にも庇がついた形式。日吉大社に典型的な神社建築様式。
	菱組欄間 (ヒシグミランマ)	格子や組子を菱形に組んだ欄間のこと。菱欄間 (ヒシランマ) ともいう。
	平 (ヒラ)	建物の各面 (側面) の呼び名。屋根の大棟と平行な面 (建物の長辺側のことが多い) を「平」という。
	檜皮葺き (ヒワタヅキ)	屋根葺き技法の一つ。ヒノキの樹皮と竹釘などを用いて施工された屋根。桧皮葺き。
	舟板堀 (フナイタヘイ)	舟の側板を利用して建てられた堀。
	墨書 (ボクショ)	建物の棟木 (ムナギ)、梁などに書き残された建立年代、寸法、番付などの記述。
マ	棟札 (ムナヅカ)	建物の建築・修築の記録・記念として、棟木・梁などに取り付けた札。
	身舎・母屋 (ミヤ)	主要な柱に囲まれた建物の中心部・空間。
ヤ	寄棟造り (ヨセムネヅクリ)	大棟から四方向に斜面をふきおろした屋根の形式。広い意味では、同様の屋根をもつ建物のことを指す。
ラ	欄干 (ランカン)	橋や建物の外縁などに縦横に材をわたして、人の墜落を防ぐ手すりで、装飾を兼ねるものもある。高欄ともいう。
	欄間 (ランマ)	一般に鴨居 (ガキ) と天井との間に設けられた開口部のこと。採光や通風の役割を担ってるが、この部分には種々の装飾が施される。

滋賀県

マップ



AR (拡張現実) を使った観光情報を配信中!

スマートフォンのカメラで観光地のある方角を見ると、画面内に観光地のエアタグが映し出されます。観光地のエアタグをタップすると、「詳しい情報」や「観光地までのルート」を見る事ができます。右記手順で「近江八幡市八幡」「東近江市五個荘金堂」「大津市坂本」の旧邸宅や観光地の情報をご覧頂けます。是非ご利用下さい。

このサービスをご利用頂くには、スマートフォン及びARアプリケーション「junaio (ジュナイオ)」(無料)のダウンロードが必要となります。



iPhoneは「AppStore」、Androidは「GooglePlayストア」より「junaio」で検索。検索結果より「junaio Augmented Reality」を選択しダウンロードしてください。(無料)

junaio (ジュナイオ) のサービスは2014年3月末まで配信

【ご注意】お客様の端末利用状況 (電波状況、機種、OSバージョン等) によっては、サービスをご利用いただけない場合があります。・サービスのご利用にあたっては、ご利用者様の責任において行ってください。・アプリのダウンロードおよびご利用等にかかる通信費等はご利用者様の負担となります。・アプリのダウンロードおよびご利用等により生じた損害等について、発行者は一切の責任を負わないものとします。



左上の虫眼鏡マークを押してください。

「近江建物」と検索し、リストの「近江建物探訪AR」を選択してください。

カメラに映る風景の中に、観光地情報 (エアタグ) が表示され、現在位置から目的地までの距離がわかります。